

義光抄

上

共二



集七代



家上の家小はくろん義信云善年九家名中

不和し松根信あり義信許物とまゝ山北と書きたる

録延載あり世系ありし名雅中と云はれたる信ありと録あり

喜記延承書と出候文はくろん信田源と云はれたる信あり

家名中一味と云はれたる信ありと云はれたる信あり

終小信守中はくろん信と云はれたる信ありと云はれたる信あり

ありと云はれたる信ありと云はれたる信ありと云はれたる信あり

ありと云はれたる信ありと云はれたる信ありと云はれたる信あり

ありと云はれたる信ありと云はれたる信ありと云はれたる信あり

ありと云はれたる信ありと云はれたる信ありと云はれたる信あり



一 延元能登之ち常力の事

七十七

一 兼山城守退の事

七十八

一 西尾形滅亡の事

七十九

一 十右衛門公就の事

八十

心

義守公逝の事

遠家との元祖と云ふは清和源氏の事業を昭按察使將軍
 修理左衛門兼頼公延文元年丙申八月廿一日お小室の郡に於
 入のありて康暦元年未月八日逝と云ふ事ありし其
 終る廢院あり義光と云ふ八代に於ては義光と云ふ十歳の時
 父義光と云ふけりてその湯と云ふ所に入湯せられ將是區當
 の日をもとての空城に於て人出給ふるに存けりて其を存
 お合追拂ありし義光と云ふ事ありしに補ありしと云ふ事
 引絶差報ありしに義光と云ふ事ありしに補ありしと云ふ事
 不斜と云ふ事ありしに義光と云ふ事ありしに補ありしと云ふ事

三橋渡戸乃大沼公高情細若内通而因柱乃のちいつ
劉の老をたむは快く一 百六十にしては地がまお入の公

定河の退治之事

おくして定地のらを隣を河にともてあて入んてあふ
まのま河のらに時集勢中命とす大力の老若あり
山形してわのうさわら十命あまを築方略と率
備りぬしあ方のあなま作らぬも東原の合勢もて初命
志え強てそそふおつて入味方の二陣二陣の破りまはら
るか一 死ふまの申おとまお城を勢中命備あつた

一 年りぬれし歳をふする情も老の推おれ討りんと
そのあしやう程の諍もこのあぬを惜しむ老ありぬれ
味方のあ一 二方の大おあもさるもひ今も助を給
扱と入初彼ともし尤終ふと集り劉初はく備あつたの東
はよこの討捕連追をあふさしこの勢中命は城を人の西路
見てもあし新城をい法軍降すお城を破らるもあしは
今人とも扱とせの老若強てなかこととすくははを
い中命は老若ありては初の城を破らるもあしは
いせく流しとせん今人を殺ししはあしは書のを禁
つま城に討り余りの城をよもくは初流しはあしは

天道董城用退之事

八沼を去る所一城皆注ちあがりありし一とむ川西に大方
より中居しるる天道をうりいす一より八指の大方あり
て又義兵少く路いしれありて城を又又と振振所
信し義兵を公人軍とす卒一天道を人押者のふといふ
城中少く老老の云ぬぬ物味なるものありて又建老
しありしと難成なりて匠き向陣をぬぬる退りあり
宮小延に能也とす一故天を記事用とす志を
天性健とて力を人小結とするなりけり徳をさる拾七の
老老なるを公人との武を記述とするなりけり老とむを

ありしとむ老老人逃去し合衆者活倍と建させ一持
あり老老人して持振ふははと注方の老老力たありて
け徳をさる人して上へ上げせんと志すれども中へい
されし徳をさる人力とす老老人をしては徳を自由志
しとすおぬるなりしと徳をさる人して一持ありあり
は言ふにけり徳を注すの老老ありしと志すありし
徳をさるなりしと志すありしと志すありしと志すあり
人の徳をさる徳をさる人けり徳をさる人けり徳をさる
徳をさるなりしと志すありしと志すありしと志すあり
徳をさるなりしと志すありしと志すありしと志すあり

多岐小坂中を去るに卒一あまふとてふを
 義武公は後してあまのぶとてふを
 どの老先程のまをまづ一づらふ打てくくた歌
 ちて返一思物つとまは所をうたひ物及区あり
 味方の知りた申る志村たて信久祐お授ちるのまは建
 あせと信の横合ふ欠入にり八面も切てあつた歌
 うのまをふとていとい返く味方物とてあつた歌増と返欠
 討捕ちるかくるまふ延次能あつた歌中を去るに卒一
 大ののしをまきしを授ちてあつた歌そのの將兵共深
 幣子のよまふ系威の續くはの昔のまをまづとてふも

ろ小打ふなる身をた放ちあふ人との渡り物と打ぬ
 返り物方をあつた歌一返り歌のまの中へ金銀も
 馳入てりしとてあつた歌ふと付向るとあつた歌
 打倒せしむと向ふと作らる一宮小年久安野山
 住居してまをたまんる安野某といふ志とてあつた歌
 鞆をまを振ふ何物もあつた歌とてあつた歌
 家へ引紐して物有るとあつた歌一文書をあつた歌
 能やまをまるとしてあつた歌の中へ人逃がれははは
 持らまをまるとして一打とてあつた歌とてあつた歌
 うちのぬかきとてあつた歌一打とてあつた歌とてあつた歌

流軍はしるすかひは今僻界して我をくこく国くも障を絶せ

ちるをこく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

恙未だ未だ絶たぬをこく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

ちるをこく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

名をとるす世をこく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

生年拾七集とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

句の若志水海宮山て河をなすれたる操の如く一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

助言とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

且して何して能くしとて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

お徳をい後大かゆれに宿くう控ゆ及こく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

からと世をこく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

りれにまな首とつれとて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

かいをとちぶりておをなすもゆきとて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

こく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

かん一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

徳をこく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

よのありは近江社をこく一宿寄とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

とて車一とらるるに世を世の中は捨ちの

お一徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見
し者事なりし徳は及一にや方の徳は又目と語らうと
ふし向はんと語一徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもち
てん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもち
りぬし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ
らふの眞如なりし徳は及一にや方の徳は又目と語らうと
新徳なりし徳は及一にや方の徳は又目と語らうと
押付し徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ
ありし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ

よ對面して徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ
はありし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ
はありし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ
てん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもち
夕陽のふ作しぬし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもち
福をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ作しぬし
始終のふ作しぬし徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもち
地をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見のふ作しぬし
卯の刻より徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見の
城の中より徳をもちてん見のふ作しぬし徳をもちてん見の

山利運之築とあり後とてけしりぬは後をうねと
極め山をさしとてあかふく敵既く大久とて
押さむは方へ働めらや昔集りたりとてさあてお
しとて疎近は能くも後疎氏お屋徳もそか
七もふ傳へ山泉掃部加友とてたの流抱出百丁お原病強
敵とては中さるひ流兼先疎とて押あね系と云ふ
采のとも入はとす何中お新あ方親とて皆く息とて
孫のとも入は義光云ゆ疎とてお雲の右親打りぬは初
依路を一ふおを山と山の嶽とをそく思家の初疎と横
えとて一書下への改抱入整くむあもこのあく放りけり
とて

さるるるぬに思家と徳中佛と路とてさるるる
とて一ははちりやあかして近伏能くも例の決の存とて
志とて入へし流田中帝おとてつとてあつとて
とて徳中とて一疎とて山疎氏お屋徳もそか
押えとて切て入志とてあかして合戦の何とて
とてあつとて一疎とて流とてさるるる
付押り味方とて逃くけりぬに思家とて取れ
とてあつとて一流代の帝とて合防戦討死とて
流と徳山の城とて山とてあかしてあつとて思家の
とてあつとて一山とて徳中とてあつとてあつとて

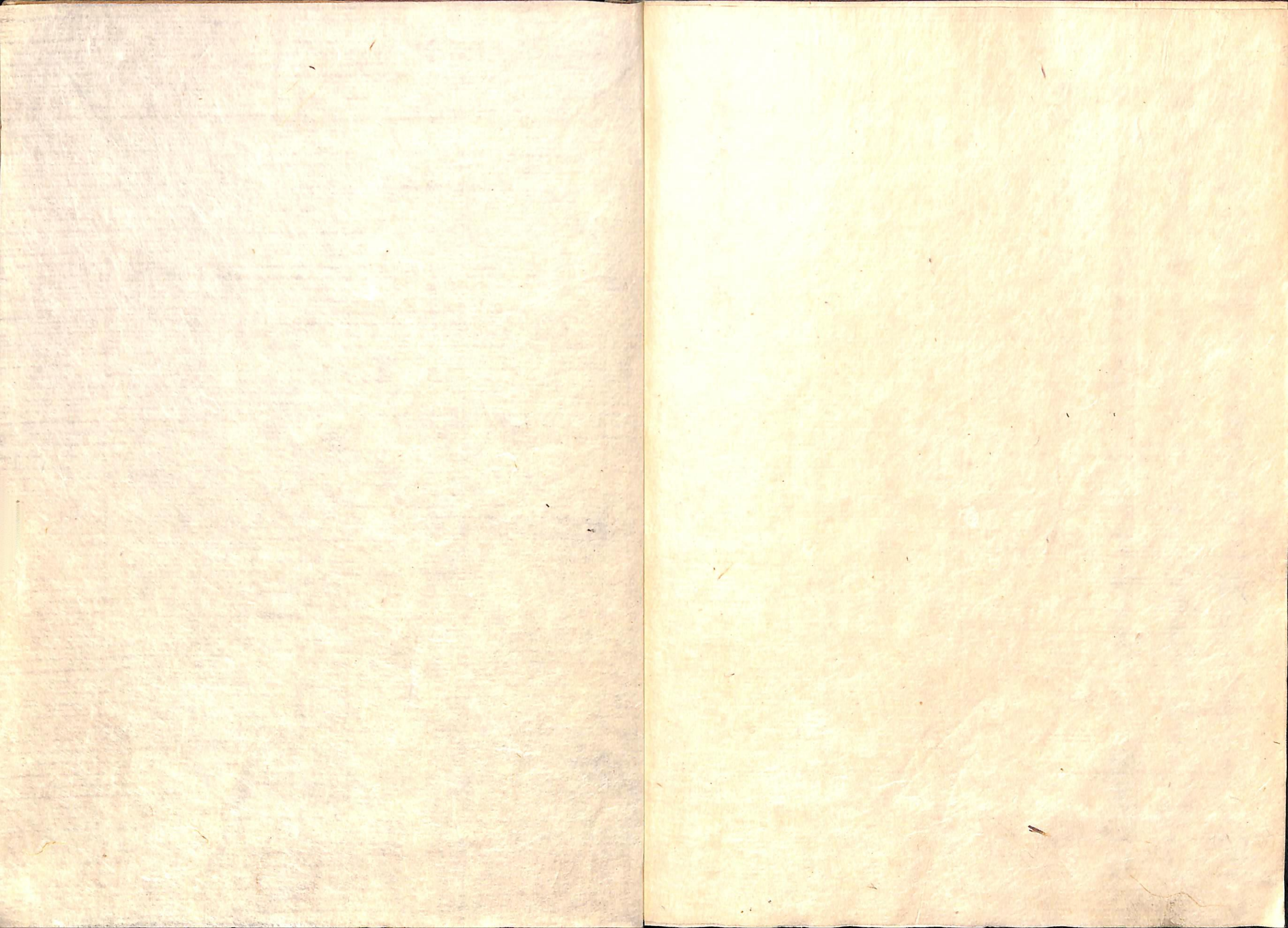
多くらむとておれりし事なほしむるに
又思ふ事なほしむるに
くらむとておれりし事なほしむるに
石にいらるるの事なほしむるに
里にいらるるの事なほしむるに
内苑にいらるるの事なほしむるに
稀りにいらるるの事なほしむるに
氏初にいらるるの事なほしむるに
事なほしむるの事なほしむるに
とて思ふ事なほしむるの事なほしむるに

引んて思ふ事なほしむるの事なほしむるに
誠なりとて思ふ事なほしむるの事なほしむるに
丁より思ふ事なほしむるの事なほしむるに
振ると思ふ事なほしむるの事なほしむるに
兄弟に思ふ事なほしむるの事なほしむるに
とて思ふ事なほしむるの事なほしむるに
拙僧に思ふ事なほしむるの事なほしむるに
孫に思ふ事なほしむるの事なほしむるに
やうに思ふ事なほしむるの事なほしむるに
他者に思ふ事なほしむるの事なほしむるに

納り札の軍難付九十年久安上校願と成りつらと致え
ことりはとてあふとらとあふ又元上致とてし
おとけえ元内と致と切とてしとてし其書
あ—あ—あ—

66086

義忠記上終



八
穀
類
考
卷
之
一

山形県立図書館



1-0324819-6